

* 若い世代へのアンケート調査結果



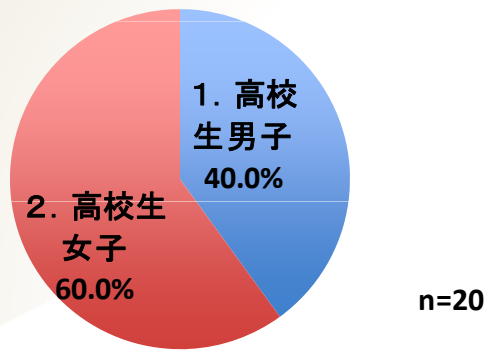
平成27年10月

栄村

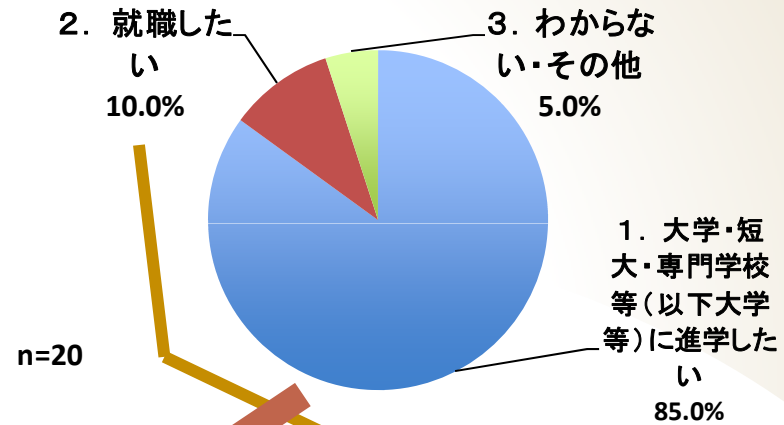
(アンケート受託：(一財)長野経済研究所)

調査期間	平成27年9月1日～14日
対象者	アンケート調査時点での高校生世代46人
回収率等	回収20人、回収率43.5%

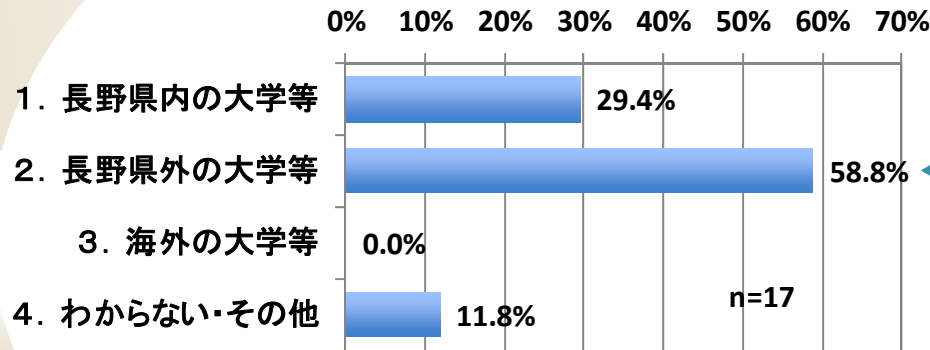
1. 属性情報



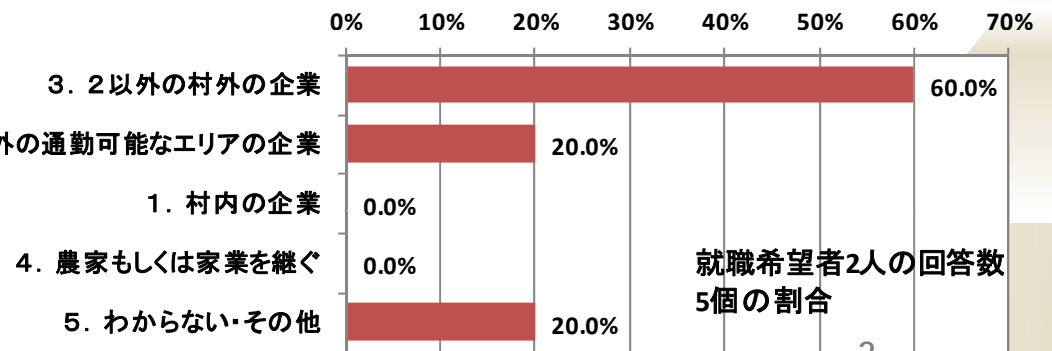
2. 進路希望



3. 進学先の希望



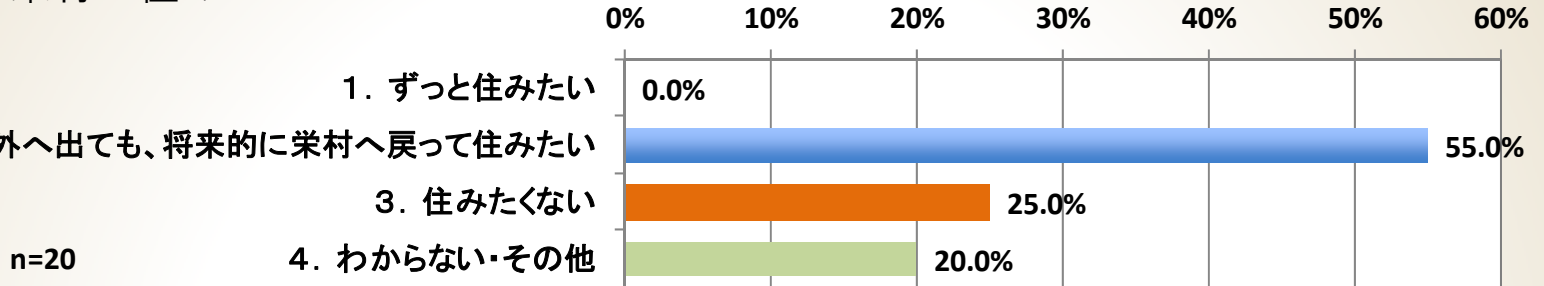
4. 就職先の希望



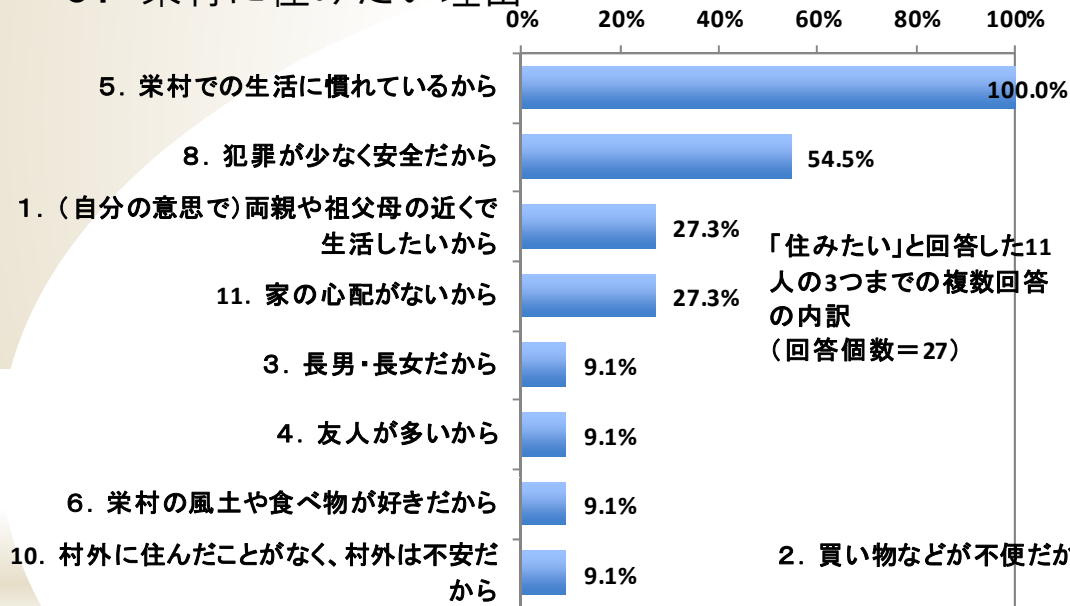
新潟県3人、神奈川県2人、千葉、静岡、岐阜各1人、わからない2人 (n=10)

・ 20人の高校生のうち、進学希望は17人、就職希望は2人。
 ・ 進学先の希望は県外が58.8%、就職先の希望は村外が80%の回答割合。

5. 将来も栄村に住みたいか



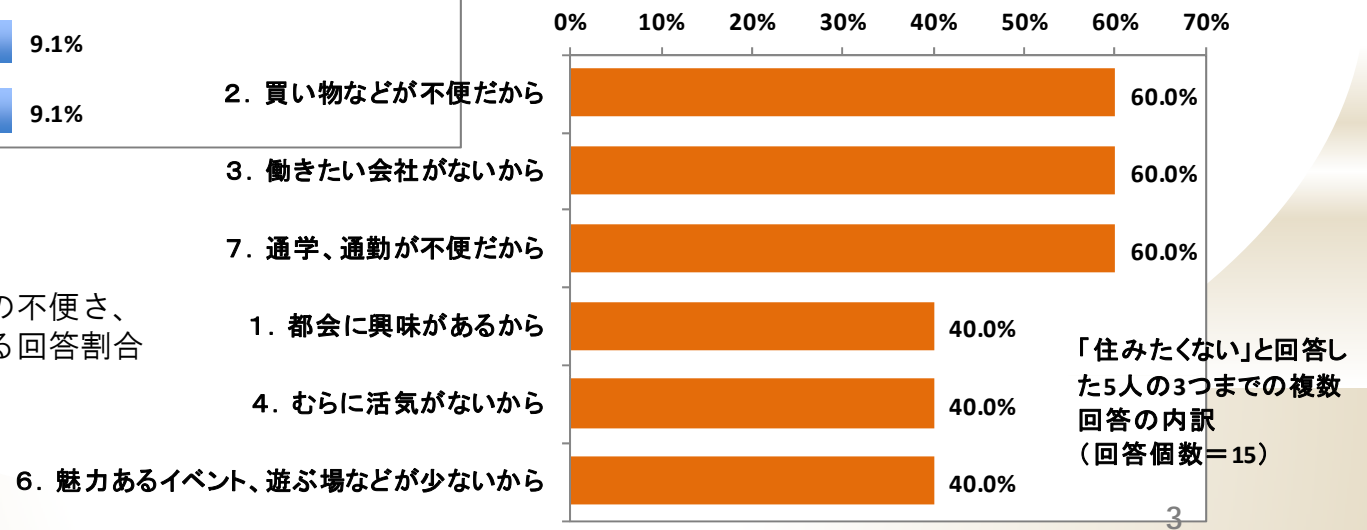
6. 栄村に住みたい理由



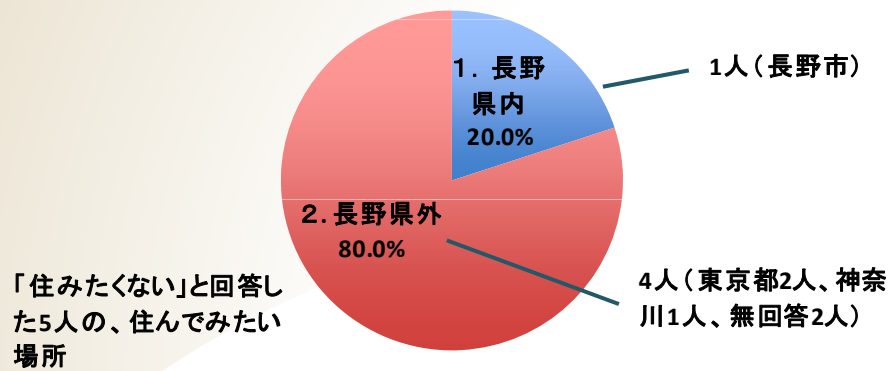
・「住みたくない」理由では、買物の不便さ、働き口、通勤・通学の不便さをあげる回答割合が多い結果となった。

・若い世代の栄村への定住希望は過半を占めているものの、「ずっと住みたい」は0%であった。
 ・住みたい理由としては、「栄村の生活に慣れているから」が一番の理由で、次いで「犯罪が少なく安全だから」が続く。

7. 栄村に住みたくない理由

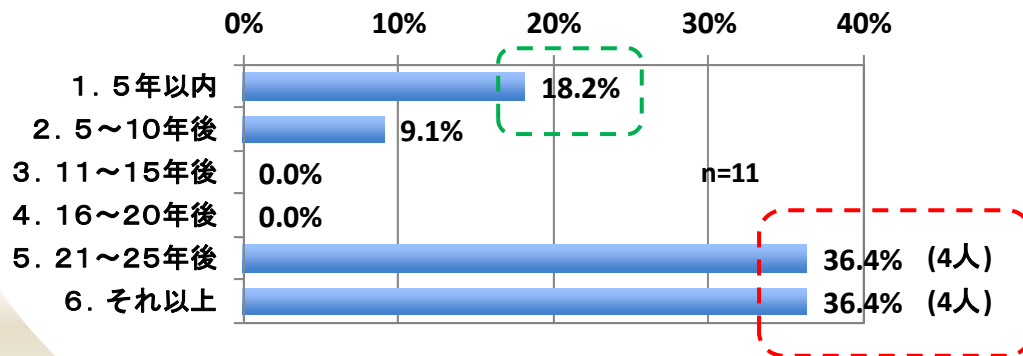


8. 住んでみたい場所



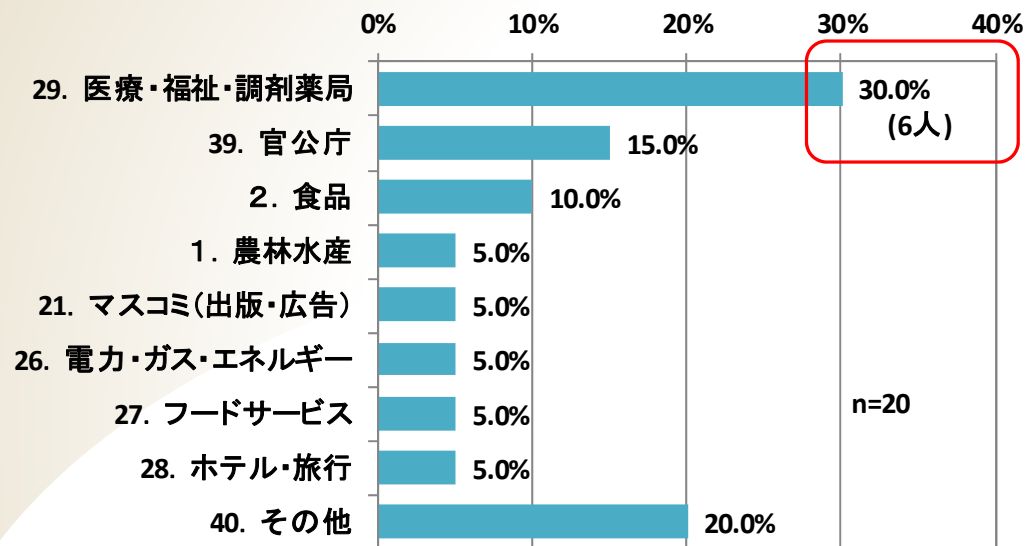
住みたくないと回答した人の住みたい場所では、5人中2人が県外、1人が長野市と答え、2人は無回答。

9. 栄村に戻って住みたい場合、将来的に何年後をイメージするか



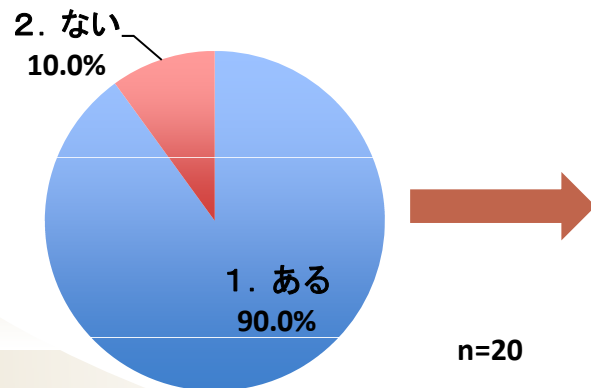
将来的に戻る場合、何年後をイメージするか問いには、「21年以上のちに」の回答が8人(72.8%)であった一方、「5年以内に戻りたい」と答えた人が2人にとどまるなど、若い世代の近い将来のUターンの希望は、実際には低いものと推察される。

10. 将来就きたい職業（の業界）

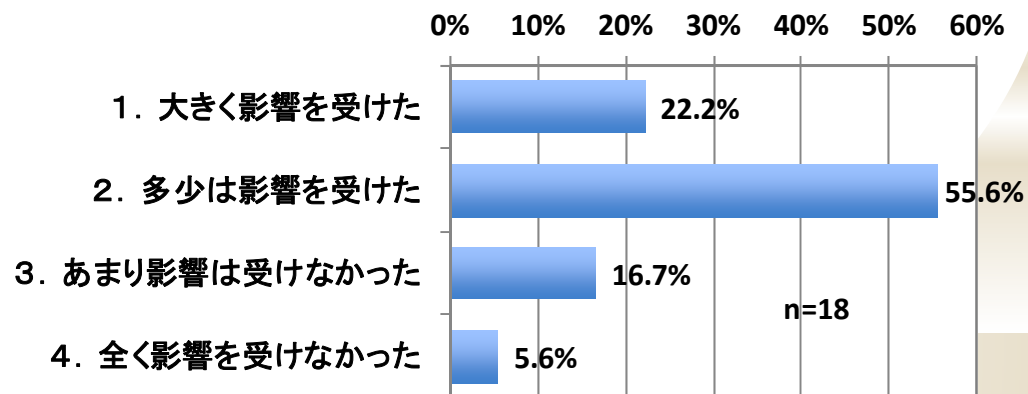


・将来就きたい職業（の業界）では、医療・福祉・調剤薬局が最も多く、最近の医療・介護マーケットの拡大を反映しているものと考えられる。

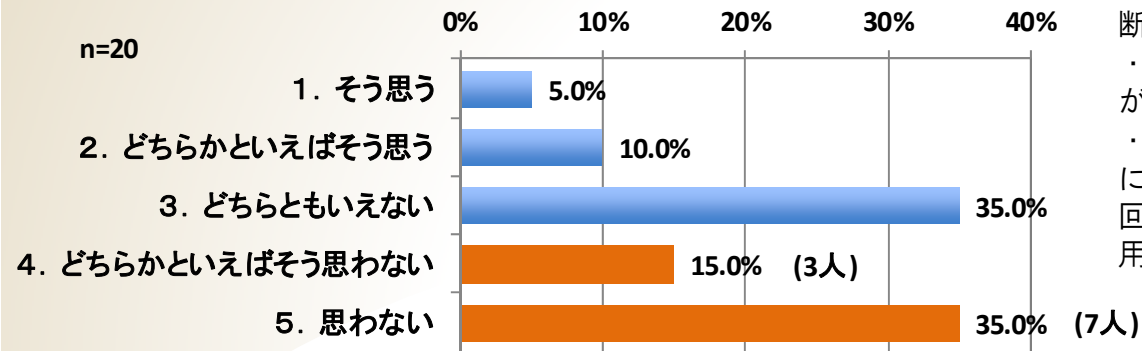
11. 就職や進学について両親と相談したことがあるか



12. そのアドバイスは進路にあたって影響を受けているか



13. 栄村は働きやすそうな村だと思うか



・若い世代は「栄村を働きやすい村とは思っていない」ようであるが、「どちらともいえない」など判断のつかない回答も多くみられた。

・「働きやすそうな村だとは思わない」理由の殆どが、働き口や仕事が少ないからという回答。

・自由記述の内容と「進路」、「居住意思」との間には明確な関係がみられないが、「進学したい」と回答した人の多くはUターン志向があることから、雇用機会は重要と考えられる。

<自由記述から>

- 若い世代の描く栄村の将来像については、「にぎやかな」「明るい」「活気がある」「生き生きとした」「元気な」村といったポジティブワードが多くみられました。
- また、「自然」をキーワードに、「自然と共存できる」「良い状態の自然が残っている」「栄村にしかないたくさんの自然」といった、自然を生かすべきという意見もありました。
- 栄村の人の優しさ、温かさ、子どもからお年寄りまで元気に住める村、新しく住む人を温かく迎えてくれる村という、ハートフルな村のイメージを抱いている意見もみられます。
- そうした中で、「山村留学」の提案、「首都圏に住んでいる人たちの憩いの場所」「テレビの『田舎に泊まろう』のようなホームステイスタイルの村」がいい、などといった具体的な「人呼び施策」を描いている高校生もいます。
- 文字通り「栄える」村になって欲しいという意味は、「物の豊かさよりも感情や精神の豊かさ」を追求しているのではないかと推察されます。
- これまでの回答の中にみられた、「働き口の確保」や「インフラの整備」の必要性を求めている現実的な施策も重要ですが、20年後、30年後、あるいはそれ以上先に村のグランドデザインを描くのは、こうした、もともと栄村が持っていたtrait（特性、特色）に加えて、人間らしい温かい心をもった社会の実現を基本的目標の一つに沿えるのも必要と考えます。